

階段は通らず、階段でエレベーターで上り、保安房へぶちまけた。声は大声と拍手をきく（じりじり）するで声はたてられなかった。（エレベーターと、この道手はじりじり上げは、明らかに保安房につれていくまで前をまわすように考えたものである。前回は、保安房にぶちまける左、獄中にもどる（？）とくわい（？））保安房の中で絶食続行。昼頃、面会室から出るという。運動場に番する中央の通路は通行止め、他の獄中者はたいてい、また、看守が警備している。面会待合室の前にも、6名の看守が立っている。待合室の前は他の獄中者はくもい、また、監視カメラ厳禁状態である。しばらくしていつもは差通会室で面会。高橋さん方から外に争い、また、入らないうえに看守がまわって中に入らないうえに面会している。また、他の面会者、人子ひとりもない、というのを聞く。こちらの中の様子を。面会終了後、東、西と反対に強制連行される。抵抗したら4人がかりでつかまれ、側面通路を強制連行されて再び保安房にぶちまけた。

2月11日 朝、絶食解除。3時頃保安房から出る。しばらくして面会あり。山本君、高橋さんから2月16日センターで争い、など聞く。2月16日は、獄中では、シマちゃん、モグちゃん、勝ちゃん、と4人とも保安房にぶちまけたとのことである。

2月18日 朝、外でマクで何か叫んでいるのが聞こえてくる。でも、おれにもいやなことでもあつたのではないかと気をもんでいると面会があった。山本君からモグちゃん、この日朝10時まで保安房にぶちまけていたと、弁護士の接見を待ち、医師の（全日精神、病舎集団指定）接見要求をだしていることを聞いた。

（体が極度に衰弱している）

③

外から指定病舎の接見を待ち、これは極度に重要な意味をもつ。また、前日、金から、何く仲間会、金B、Dなど20人くらいがよしかけて争っているとのことである。

3 終結

① 日帝国家権力、大物、地検、府警に対し、人民の敵を糾弾を貫徹した。

2.16 小川、小川、獄中者は、日帝国家権力、大物、地検、府警に対し、敵を糾弾を貫徹した。

この糾弾行動に対し、大物当局は、監獄内戒厳体制をいたしたのである。小川、小川は「精神障害者」

解放、金崎解放運動の戦士である。鈴木男君を虐殺したこの大物に、その2年目、決して平穏な

日を迎えさせることなく、戒厳体制をとったのである。また、2.16における決起を通じて、大物の警備体制

をマヒさせる具体性をいふことができた。2.16 保安房にぶちまけると、1階中央通路を、340人の警備員、看守

がどろどろ歩いてきて、その内、何人かは、おれを保安房にぶちまけた加害者だが、マウラが当日朝、交換と警備

を行う役割であつた。この戒厳体制をマヒさせるためは一斉に蜂起することである。かりに獄中者が4

名、看守10人をいじめて、斗っても40人の計算になる。大物の看守は全部で40人いるから、獄中者10人位が一

蜂起しただけでも、それだけでも相当の反乱状況をつくりだすことができる。

② 保安房の紛争、対大物闘争の重要性

2.16 ~~大物~~ 大物当局は、保安房にぶちまけた獄中者の面会を認めざるをえなかった。また、モグちゃんを2月18日

④

5. 獄外の生活上の問題提起

釜での大衆運動がセンターで圧力的清算斗争をもて展開されたのは昨年の2.16と比較して、やはりこの一年間の釜における運動の前進を示しているものと思います。いくつかの点を提起してみます。複壁にとどまらず。

① 釜での、現在の切く仲間会公の存在意義を積極的に確定しよう

切く仲間会も釜の労働者仲間にも存在は一定程度知れわたっていると思います。かつて釜斗争は悪徳手面が主持していた労働者の闘いの場であった。その日、日帝国家権力、警察権力が凶暴な抑圧支配体制をしいでいる。切く仲間会は、かつて釜斗争のように、たけな、成り代りとして機能してないとしても、釜の労働者仲間、対悪徳手面所に対する様々な意味での抵抗の場としてその役割が積極的にあるものと思います。

② 運動形成上の諸点

④ 問題の解決はなされたか。保安処分問題の解決はなされたか。

⑤ 組織的民主主義の実現はなされたか。大衆的斗争組織である以上、斗争の問題は広く首の討議で統一性をなすことが出来たのだろうか。民主と集中を發揮して斗争の力を果たしたのだろうか。

⑥ 宣伝活動は充分に、非内閣の早化をもて展開されたのだろうか。

⑦ 自衛性と共産主義の対立統一を正しくとらえ運用してきたのだろうか。

斗争組織としてお互いの労働者の結束、決意をなすべく、自衛性の精神で、学習、宣伝活動、獄中救援をもつ生産活動、さらには自分達自身による思想、政治、自衛活動とともに、現実

⑥

ハズ続行中の保安処分からたゞざるをえなかった。大拘は釜本四男君に対し、一切の面会要求を無視し、保安処分を拘束しつづけた。2月16日に面会を認められたことが欺瞞的のものであった。これは当日の大衆的決意による対抗斗争への当局の対応の結果である。これらの斗争は、監獄、精神病院における保安処分の排除と、監獄、精神病院に対する大衆的包圍斗争が阻止されたことを示した。これらの斗争は一人の仲間にも保安処分の排除を許さないという決意を固めて今後と斗争、てめがけなければならない。

③ 各々の自立決意に基づく斗争の蓄積とその爆発

~~この斗争~~ 小く小く4人が一斉に斗争に立ち上ったのは、各々の自立決意に基づくものであった。保安処分を排除し、獄中弾圧を粉砕。釜の労働者の思想的、政治的内容を日帝国家権力に対する大衆的斗争の中へ実践したものである。単なる言葉上の意思表明を足場を捕えようとするのではなく、日帝監獄に対する各々の斗争の事実行為をもつて団結斗争の団結の有効性、正さを証明したものである。

4. 保安処分粉砕 釜本四男君糾弾斗争上の今後の課題

実態的保安処分に対する斗争の継続。対監獄、精神病院に対する斗争の継続を確認しよう。

非釜本四男君糾弾斗争にも積極的に参加し、大拘、保安、保安処分体制の無法、ファシズムを徹底的にバカにしていく。

⑤

他のこの組織がいて共通の斗争課題がはっきりしていれば共同行動も積極的に相うことになると思います。自力更生がなく共同行動だけを重視すれば、互いの国体を置きあつてポカール政治になってしまうので、これはおあいと思います。非共同行動に際しても一定の原則をうたてゑを實踐していくことが大切だと思います。

③ 労働者の間に広く社会主義思想をうたてよう。

かつての各共産党が担った先進的労働者を含めて、現存する仲間も含めて、労働者の間に広く社会主義思想をうたて、これを基軸としていろいろの問題を解決する必要があると思います。しかしこれは社会主義のための革命的な大衆路線を採用し活動するべきであると思います。非、中国共産党の三大規律八項注意のうちの一定の原則をうたてて広く浸透させる必要があるでしょう。

6. 日帝工作部による社会主義の重要な戦場としての日帝監獄戦線の構築について

① 今後の斗争を通じて獄中斗争とはどういうものか、社会主義的労働者は獄中においてどうすべきか、この二つをめぐって主体に入りました。よく、ZELIEL 朝、看守の弾圧と闘いつつ、基本的に革命的、社会主義的自衛斗争を貫徹したことは事実です。これと置て、一つおとすたに陪審官になるのは非常に大きな意義があります。この糾弾・自衛斗争に対する反応は革命的、友好的反応となり現われ、獄中における社会主義者の斗争の能動的、攻取的なものに社会主義的自衛・解放斗争があると思います。これは獄中における最大の

⑦

課題をもとに上げて宣伝するものでありますが、自衛の遂行自体が非合法斗争であり、看守の肉体防衛で防戦であり、保安房に連行されるまで、看守との死闘に似て格闘であるから、他の獄中者にとっても、自衛を直ぐ、看守の弾圧に闘っているという関係で、非常に大きな革命的影響を与えます。この斗争によって社会主義者、先進的労働者が受ける暴行、弾圧も、無量の無量の人民の獄中における苦しみから法を破るものであるでしょう。

② 今後の斗争を通じて獄中の社会主義者、先進的労働者の団結の重要性が非常にはっきり認識できました。斗争の団結によって何程の力を期待しているのか、自覚性としていかにか感じています。非、獄中における社会主義者、先進的労働者、人民の団結が促進することによって獄外にも革命的影響を与えていくことになるでしょう。

日帝監獄を下アノルタリ人民の弾圧から斗争の戦場にさせるには、

社会主義は下アノルタリ人民の現在の利益と将来の利益を代表するものである。

したがって獄中においても社会主義の旗を高く掲げて社会主義のための斗争に獄中の人民とともに前進しなければならぬ。

獄中においては、全ての要求事項も、日帝国家権力、監獄支配体制との対決の表現なのである。獄中人民の団結と日帝の力関係、日帝と全人民との力関係の反映である。したがって、日帝監獄支配体制との対決、斗争で敵を退却させる、自衛させるという観点をもつて、全ての要求事項をもとに斗争の旗を立て、斗争に闘うべきです。

獄中人民の斗争組織は、一人の斗争決意に支えられた組織である。斗争の進展行動によって組織は発展

⑧

自外表現される人であつておしむりによつておけぬ。このことが全ての斗争組織の組織記の教へであり、戦中においても同様である。

とはいへ、全ての人民の自らの思想、政治的立場を認識して行動するも、非真理であるから、斗争組織といふものは、まずその内部の統一が保証され、全ての意見が公開され、行動する、斗争的行動をとり出すべきである。このおの意で、戦外と戦中とを区別する人々の役割は非常に重要であり、戦外の壁で分断されている人々の戦中での役割の要へを担うものとして戦外は位置するものである。戦外の斗争人は、救済運動の原則をあくまでも忘れず、ふたつ、戦中の斗争をとり出すことが要求される。

① 戦中における斗争方針

① 戦中における斗争方針

② 戦中の斗争的役割を担う春、秋、統一行動

③ 2.16統一行動

④ 全人民的政治課題を担う斗争、~~戦中~~

⑤ 戦中における社会主義の斗争

以上が斗争方針です。これらの斗争を、戦中斗争を基軸として斗争、戦中戦線をつくり出し、社会主義・7月戦線の日本帝国主义に対する全人民的斗争の一翼を担うべきです。この戦中斗争組織は、戦中、各自治体の統一戦線であり、さしあたり社会主義戦中戦線とでもいふべきであらうか。

社会主義の目標に沿つて団結し、斗争を展開する。

1978.2.19. 大井 成島忠夫